

抜本的見直しに向けた取組状況

(法人名)

(株) 湘南国際村協会

抜本的見直しに向けた取組状況

<p>平成31年 4月 ～ 令和 2年 3月</p>	<p>1 改訂第四次経営計画における取組の実施</p> <p>計画の2年度目となる令和元年度(2019年度)は、次に掲げる取組などにより事業の不断の見直しと改善を進めて、業績向上に全力で取り組み、31,241人の宿泊人数を確保し、売上高550百万円、営業利益58百万円となった。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響がなければ、宿泊人数及び営業利益については概ね計画値を達成したと思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リピーターの利用継続に向けた、一顧客一担当制によるきめ細かい対応と定期的な営業活動の展開 ・ 神奈川県に関連団体や企業へ県とともに働きかけ、特に閑散期における新規顧客の利用を誘致 ・ ネットエージェントの活用や、新規問合せを成約につなげる積極的フォロー等による新規顧客の開拓 ・ 新利用料金の円滑な導入 ・ 国際会議や学会の誘致のため、大学、研究機関等をターゲットとして、県の助成制度と連携し、学会事務局業務の代行のアピールとともに営業活動を展開 ・ 効果的な広報の充実(企業・大学・学校等の顧客別のニーズに合わせたPRや、ホームページ等を活用したわかりやすい情報提供) <p>2 営業利益</p> <p>営業費用については計画値を48百万円(前年度比△34百万円)下回る額に抑え、営業利益は58百万円となった。</p>
------------------------------------	--

所管課の指導・調整内容等

県は、改訂第四次経営計画における取組が着実に実施されるよう、国際会議の誘致・定着への支援などを進めてきた。また、村センター建物の区分所有者として、村センターの大規模修繕の効果的・効率的な実施にも取り組んできたところである。

令和2年度は、湘南国際村センターは新型コロナウイルス感染症軽症者等の宿泊療養施設として運営されているが、令和3年度に宿泊研修施設として本来の営業を再開できた際は、県としても、改めて関係団体に研修等での利用を呼びかけるなど、円滑な営業再開に向けて、協会と一丸となって、取り組んでいく。

※ 必要に応じて資料を添付してください。

経営改善目標の達成に向けた取組状況

1 法人の概要（令和2年7月1日現在）

法人名	(株) 湘南国際村協会				
設立年月日	平成元年10月17日		代表者名	代表取締役社長 金子 真理子	
所在地	三浦郡葉山町上山口1560-39		電話番号	046-855-1811	
基本財産等	494,000,000 円	県出資額	1,020,000,000 円	県出資率	40.8 %
		※ 評価額	201,552,000 円	※ 評価額から算出	

2 法人運営における現状の課題

① 湘南国際村基本計画を踏まえた事業の展開	② 安定的な売上の確保
③ コスト管理の徹底	④ 計画的な修繕の実施
⑤ 事業再開後の利用促進に向けた準備	

3 経営改善目標の達成に向けた取組実績等

* 項目ごとに、下段の（ ）内に目標を、上段に実績を記載してください。

【収支健全化に向けた経営改善】

No.	項目	単位	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	3年度	4年度	元年度自己評価
1	宿泊人数	人	35,145 (33,300)	31,241 (33,600)	(33,400)	(34,200)	(34,500)	A
	自己評価の理由			今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）				
	上期においては当社の売上高の枢要を占める企業研修を中心としたリピーターの利用を、一顧客一担当制のメリットを駆使して、確実かつ幅広く確保することに注力し、前年同期と同等の宿泊人数となった。客室稼働率が低下する下期においては、新規顧客の開拓に努め、滞在型研修などの大型利用を獲得したものの、令和2年2月と3月は新型コロナウイルス感染症の拡大によるキャンセルが続出し、特に3月は単月ベースでは当社始まって以来の最低の宿泊人数を記録した。こうした新型コロナウイルス感染症の影響がなければ、2月、3月の予約状況等から、概ね目標を達成したと思われるため、A評価とした。				令和2年度は、湘南国際村センターは新型コロナウイルス感染症軽症者等の宿泊療養施設として運営されているが、令和3年度に宿泊研修施設として本来の営業を再開できた際は、引き続き改訂第四次経営計画の目標を達成するよう経営改善に取り組んでいく。			
	備考							

No.	項目	単位	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	3年度	4年度	元年度自己評価
2	売上高	百万円	611 (597)	550 (602)	(632)	(642)	(645)	B
	自己評価の理由			今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）				
	上期においては当社の売上高の枢要を占める企業研修を中心としたリピーターの利用を、一顧客一担当制のメリットを駆使して、確実かつ幅広く確保することに注力し、前年同期と同等の売上高となった。客室稼働率が低下する下期においては、新規顧客の開拓に努め、滞在型研修などの大型利用を獲得したものの、令和2年2月と3月は新型コロナウイルス感染症の拡大によるキャンセルが続出し、特に3月は単月ベースでは当社始まって以来の最低の売上高を記録した。また、客単価が想定したほど伸びなかったことから、仮に新型コロナウイルス感染症の影響がなく2月、3月の利用が予約状況どおりであったとしても、目標を達成できなかったと思われるため、B評価とした。				令和2年度は、湘南国際村センターは新型コロナウイルス感染症軽症者等の宿泊療養施設として運営されているが、令和3年度に宿泊研修施設として本来の営業を再開できた際は、引き続き改訂第四次経営計画の目標を達成するよう経営改善に取り組んでいく。			
	備考							

No.	項目	単位	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	3年度	4年度	元年度自己評価
	営業利益	百万円	84 (64)	58 (63)	(71)	(80)	(84)	A
	自己評価の理由			今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）				
3	営業費用については計画値を48百万円（前年度比△34百万円）下回る額に抑えた。新型コロナウイルス感染症の拡大により、令和2年2月及び3月のキャンセルなどにより目標に達しなかったが、その影響がなければ、概ね目標を達成したと思われるため、A評価とした。			令和2年度は、湘南国際村センターは新型コロナウイルス感染症軽症者等の宿泊療養施設として運営されているが、令和3年度に宿泊研修施設として本来の営業を再開できた際は、引き続き改訂第四次経営計画の目標を達成するよう経営改善に取り組んでいく。				
	備考							

4 取組実績等についての総括（法人）

<p>目標とした売上高を確保すべく、上期においては当社の売上高の枢要を占める企業研修を中心としたリピーターの利用を、一顧客一担当制のメリットを駆使して、确实かつ幅広く確保することに注力し、前年同期と同等の売上高となった。客室稼働率が低下する下期においては、新規顧客の開拓に努め、滞在型研修などの大型利用を獲得したものの、閑散期である冬期の利用が伸び悩んだ。特に、2月からは新型コロナウイルス感染症の感染状況を懸念したキャンセルが始まり、3月はキャンセルが続出して単月ベースでは当社始まって以来の最低の売上高を記録した。</p> <p>これに伴い、宿泊人数は、改訂第四次経営計画目標の33,600人を2,059人下回る31,241人となり、売上高は、同目標612百万円を62百万円下回る550百万円となった。</p> <p>営業費用は、修繕費や光熱水費の節減に努めた結果、同目標540百万円を48百万円下回る492百万円となり、この結果、営業利益は、同目標71百万円を13百万円下回る58百万円となった。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響がなければ、宿泊人数及び営業利益については概ね目標を達成したと思われる。</p>

5 取組実績等についての総括（所管課）

<p>（株）湘南国際村協会の売上高の枢要を占める企業研修を中心としたリピーターの利用を、一顧客一担当制のメリットを駆使して、确实かつ幅広く確保することに注力し、上期においては前年同期と同等の売上高としたことは評価できる。</p> <p>また、修繕費や光熱水費の節減等による営業費用抑制については、今後も継続的な取組を期待する。</p> <p>令和2年度は、湘南国際村センターが新型コロナウイルス感染症の軽症者等の宿泊療養施設として運営されているが、その間も、従来からのリピーター等に対して継続したフォローを丁寧に行い、次の利用に結び付ける努力を続けていることも評価でき、宿泊研修施設としての本来の営業が円滑に再開できるよう、そうした取組を継続することを期待する。</p>
